

平成26年度設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝

配付資料

日時：平成27年3月8日（日）

於：設楽町役場議場

報告会次第・目次

- | | | | |
|------------|------------------------------------|--------------|-----------|
| 1 | 設楽ダム関連の発掘調査について
(13時30分～13時50分) | 愛知県教育委員会 | 野口哲也・・・2 |
| 2 | 川向東貝津遺跡の発掘調査
(13時50分～14時00分) | 愛知県埋蔵文化財センター | 池本正明・・・6 |
| 3 | 平成26年度範囲確認調査
(14時00分～14時20分) | 愛知県埋蔵文化財センター | 鈴木正貴・・・8 |
| ——— 休憩 ——— | | | |
| 4 | 万瀬遺跡の発掘調査
(14時30分～14時50分) | 愛知県埋蔵文化財センター | 鈴木正貴・・・12 |
| 5 | 西地・東地遺跡の発掘調査
(14時50分～15時30分) | 愛知県埋蔵文化財センター | 川添和暁・・・16 |
| 進行・司会 | | 愛知県教育委員会 | 佐藤公保 |



設楽町教育委員会



国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所



(公財) 愛知県教育委・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

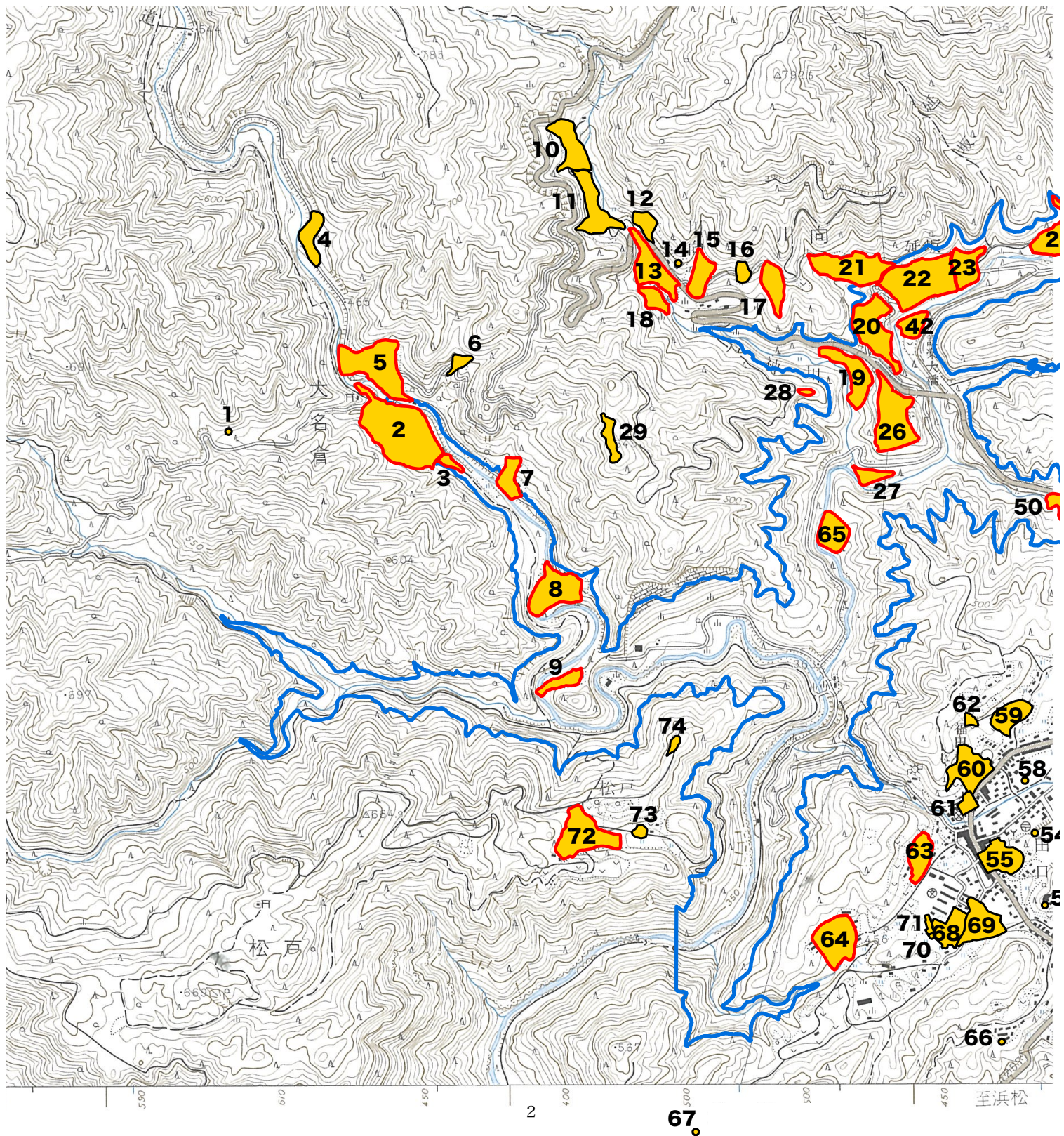


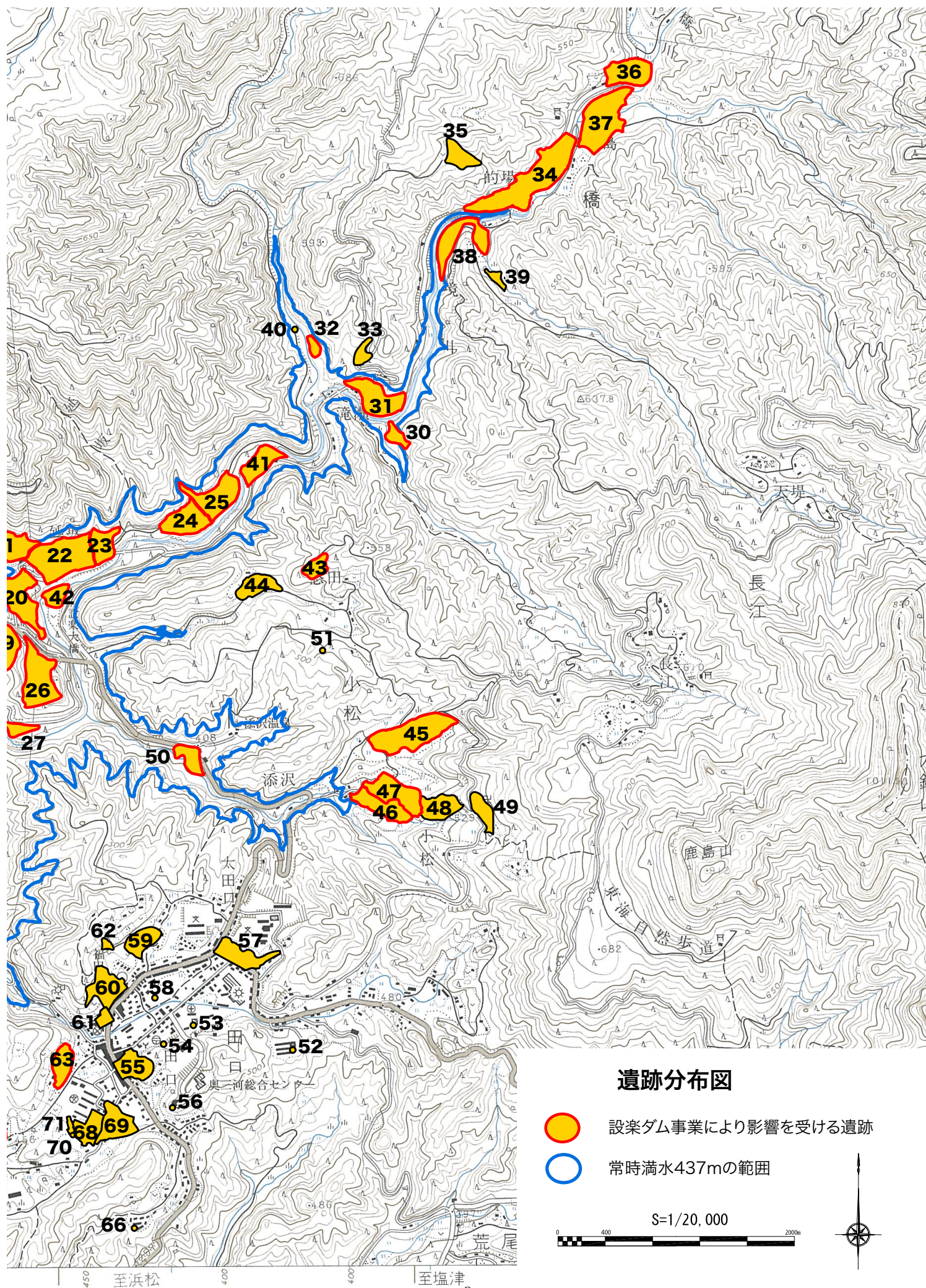
愛知県教育委員会

1. 設楽ダム関連発掘調査について

愛知県教育委員会 野口哲也

- 1 埋蔵文化財と予備調査
- 2 設楽ダム関連予備調査
- 3 今後の設楽ダム関連発掘調査





遺跡分布図

-  設楽ダム事業により影響を受ける遺跡
-  常時満水437mの範囲

S=1/20,000

0 400 2000m



遺跡一覽表

No	遺跡名	ふりがな 内容・調査歴など	地区	遺跡の時期	遺跡の種類	県遺跡番号
1	沢入り遺跡	さわいり 奥三河郷土館に磨製石斧などが所蔵される。	大名倉	縄文、弥生？	散布地	700155
2	大名倉遺跡	おおなぐら 下谷遺跡・滝の下遺跡・南貝津遺跡を一括し大名倉遺跡とする。町指定史跡。昭和25・26年と昭和43年に発掘調査、平成19・20・25・26年度に範囲確認調査を実施。	大名倉	縄文、弥生、平安～戦国	散布地	700297
3	日掛遺跡	ひかげ 詳細分布調査では縄文土器が採集された。	大名倉	縄文	散布地	700328
4	栢ノ久保遺跡	かやのくぼ 林道開設した時に縄文土器が出土したとされる。上位の旧畑地でも縄文土器片が採集された。	大名倉	縄文	散布地	700151
5	西地・東地遺跡	にしじひがしじ 西地遺跡と東地遺跡を一括する。平成25年度に範囲確認調査、平成26年度に本調査4220㎡を実施。	大名倉	縄文、平安～戦国	散布地	700152
6	後沢遺跡	うしろざわ 詳細分布調査では縄文土器と剥片などが採集された。	大名倉	縄文	散布地	700154
7	ハラビ平遺跡	はらびだいら 詳細分布調査では縄文土器や山茶碗など多くの遺物が採集された。	大名倉	縄文、平安～鎌倉、戦国	散布地	700157
8	胡桃窪遺跡	くるみくぼ 詳細分布調査では縄文土器や山茶碗など多くの遺物が採集された。	大名倉	縄文、平安～戦国	散布地	700158
9	大名倉丸山遺跡	おおなぐらまるやま 平成16年度に県の試掘調査、平成18年度に範囲確認調査を実施。鉄滓が出土し鍛冶関連遺跡と推定。	大名倉	戦国？	生産遺跡	700347
10	川向田ノ入遺跡	かわむきたのいり 詳細分布調査では須恵器と時期不明土器片などが採集された。	川向	平安	散布地	700351
11	三軒屋遺跡	さんげんや 詳細分布調査では縄文土器と山茶碗などが採集された。本遺跡採集とされる石鍾がある。	川向	縄文、鎌倉	散布地	700159
12	梨子谷下遺跡	なしやげ 詳細分布調査では山茶碗が採集された。	川向	平安末・鎌倉	散布地	700329
13	上戸神遺跡	かみとがみ 詳細分布調査では縄文土器や内耳鍋などが採集された。平成26年度に範囲確認調査を実施。	川向	縄文、平安～戦国	散布地	700160
14	道合遺跡	みちあい 奥三河郷土館に縄文土器と石鏃が所蔵される。	川向	縄文	散布地	700161
15	川向萩ノ平沢遺跡	かわむきはぎのひらさわ 詳細分布調査では打製石斧と山茶碗などが採集された。平成26年度に範囲確認調査を実施。	川向	縄文、平安	散布地	700352
16	道上遺跡	みちあげ 詳細分布調査では灰釉陶器が採集された。奥三河郷土館に縄文時代の磨製石斧が所蔵される。	川向	縄文、平安	散布地	700345
17	川向力石遺跡	かわむきちからいし 詳細分布調査では剥片などが採集された。平成17年度の県の試掘調査では遺構は確認されていない。	川向	平安末・鎌倉	散布地	700353
18	川向向山遺跡	かわむきむかいやま 詳細分布調査では瀬戸・美濃窯産播鉢などが採集された。	川向	戦国	散布地	700354
19	大栗遺跡	おおぐり 詳細分布調査では縄文土器など多くの遺物が採集された。平成26年度に範囲確認調査を実施。	川向	縄文、平安、室町～戦国	散布地	700163
20	万瀬遺跡	まんぜ 平成20・21・25年度に範囲確認調査、平成26年度に本調査2050㎡を実施。	川向	縄文、平安～戦国	散布地	700165
21	大空前遺跡	おおぞらまえ 詳細分布調査では縄文土器や天目茶碗など多くの遺物が採集された。	川向	縄文、平安～戦国	散布地	700166
22	上ヲロウ・下ヲロウ遺跡	かみおろうしもおろう 上ヲロウ遺跡と下ヲロウ遺跡を一括する。詳細分布調査では縄文土器など多くの遺物が採集された。	川向	縄文、平安～戦国	散布地	700167
23	川向近沢遺跡	かわむきちかざわ 詳細分布調査では縄文土器や山茶碗など多くの遺物が採集された。	川向	縄文、平安～戦国	散布地	700355
24	石原遺跡	いしはら 詳細分布調査では縄文土器が採集された。	川向	縄文	散布地	700170
25	下延坂遺跡	しものべさか 詳細分布調査では縄文土器や山茶碗などが採集された。	川向	縄文、弥生？、平安末・鎌倉	散布地	700171
26	大畑遺跡	おおはた 詳細分布調査では縄文土器や剥片などが採集された。	川向	縄文	散布地	700164
27	川向東貝津遺跡	かわむきひがしがいつ 平成16年度に県の試掘調査、平成18年度に範囲確認調査、平成22年度に本調査を実施。埋甕を検出。	川向	縄文、平安末・鎌倉	散布地	700348
28	南ヶ岳遺跡	みなみがたけ 詳細分布調査では剥片が採集された。奥三河郷土館に平安時代の土師器甕が所蔵される。	川向	縄文？、平安	散布地	700162
29	光石山候補地	みつ（ひかり）いしやま 明確な遺構は確認されておらず、確認調査が必要。	川向	戦国？	城館跡？	城089-003
30	八橋大平遺跡	やつはしおおびら 平成16年度に県の試掘調査、平成19年度に範囲確認調査を実施。包含層などが確認された。	八橋	縄文、平安	散布地	700349
31	滝瀬遺跡	たきせ 平成19・25年度に範囲確認調査を実施。縄文土器など多くの遺物が出土した。	八橋	縄文、室町、戦国	散布地	700174
32	根道外遺跡	ねみちそと 平成17年度に県の試掘調査を実施。縄文土器が採集された。	八橋	縄文	散布地	700173
33	長久保遺跡	ながくぼ 詳細分布調査では縄文土器などが採集された。	八橋	縄文	散布地	700331
34	中村遺跡	なかむら 平成21年度に範囲確認調査を実施。灰釉陶器など多くの遺物が出土した。	八橋	縄文、平安～室町	散布地	700176
35	八橋アテ遺跡	やつはしあて 詳細分布調査では縄文土器や天目茶碗などが採集された。	八橋	縄文、平安、戦国	散布地	700356
36	八橋谷合遺跡	やつはしやわせ 詳細分布調査では灰釉陶器が採集された。平成21年度の範囲確認調査では遺構は確認されていない。	八橋	平安	散布地	700350
37	向橋遺跡	むこうばし 詳細分布調査では灰釉陶器と山茶碗が採集された。	八橋	平安、平安末・鎌倉	散布地	700178

No	遺跡名	ふりがな 内容・調査歴など	地区	遺跡の時期	遺跡の種類	県遺跡番号
38	永江沢遺跡	ながえさわ 詳細分布調査では縄文土器や山茶碗などが採集された。平成26年度に範囲確認調査を実施。	八橋	縄文、鎌倉、室町	散布地	700175
39	八橋崩沢遺跡	やつはしなぎさわ 詳細分布調査では縄文土器が採集された。	八橋	縄文	散布地	700357
40	境川林道遺跡	さかいがわりんどう 林道開設した時に黒曜石塊が出土した。平成17年度に県の試掘調査を実施。	八橋	縄文	散布地	700330
41	マサノ沢遺跡	まさのさわ 大正12年に発見、昭和23年～24年に合口甕棺が検出された。平成17年に試掘調査と工事立会を実施。	小松	縄文	散布地	700172
42	笹平遺跡	ささだいら 平成18・20年度に範囲確認調査を実施。縄文土器など多くの遺物が出土した。	小松	縄文、弥生、平安	散布地	700169
43	丸瀬遺跡	まるせ 詳細分布調査では縄文土器と剥片が採集された。	小松	縄文	散布地	700186
44	小松沢上ゲ遺跡	こまつさやげ 詳細分布調査では灰釉陶器や瀬戸・美濃窯産播鉢などが採集された。	小松	平安、室町～戦国	散布地	700358
45	柿平遺跡	かきだいら 詳細分布調査では灰釉陶器や中国青磁碗などが採集された。	小松	平安～戦国	散布地	700189
46	中屋地遺跡	なかやじ 詳細分布調査では瀬戸・美濃窯産陶器などが採集された。	小松	平安末・鎌倉、室町～戦国	散布地	700190
47	下り道遺跡	くだりみち 詳細分布調査では灰釉陶器や瀬戸・美濃窯産播鉢などが採集された。	小松	縄文、平安、平安末～戦国	散布地	700191
48	下中熊遺跡	しもなかぐま 詳細分布調査では灰釉陶器や中国青磁碗などが採集された。	小松	平安～戦国	散布地	700192
49	上中熊遺跡	かみなかくま 詳細分布調査では灰釉陶器や瀬戸・美濃窯産天目茶碗などが採集された。	小松	平安～戦国	散布地	700193
50	添沢遺跡	そえざわ かつて縄文土器が多量に採取された。また、詳細分布調査では山茶碗などが採集された。	田口	縄文、平安末・鎌倉	散布地	700188
51	添津遺跡	そえづ 『北設楽郡史』には縄文土器や石匙などの石器が出土したと記載される。	田口	縄文、弥生？	散布地	700187
52	一ノ橋遺跡	いちのはし 奥三河郷土館に縄文土器などが所蔵される。造成による削平のため滅失したとされる。	田口	縄文	散布地	700197
53	向木屋遺跡	むかいぎや 奥三河郷土館に弥生土器と天目茶碗が所蔵される。造成により滅失したとされる。	田口	弥生	散布地	700201
54	城下遺跡	しろした 盛り土造成され、詳細は不明である。	田口	中世？	散布地	700202
55	天白遺跡	てんぱく 詳細分布調査では古瀬戸や鉄銹が採集された。奥三河郷土館には縄文土器などが所蔵される。	田口	縄文、弥生、鎌倉	散布地	700203
56	向木屋城跡	むかいぎやじょう 『北設楽郡史』には空堀や曲輪の存在が記載されるが、造成により破壊された可能性がある。	田口	戦国？	城館跡	700206
57	東遺跡	ひがし 詳細分布調査では山茶碗や瀬戸・美濃窯産天目茶碗などが採集された。	田口	鎌倉～戦国	散布地	700198
58	稲場遺跡	いなば 奥三河郷土館に磨製石斧が所蔵される。	田口	縄文	散布地	700333
59	中島遺跡	なかじま 詳細分布調査では須恵器や常滑陶器が採集された。奥三河郷土館には縄文土器などが所蔵される。	田口	縄文、平安、室町～戦国	散布地	700199
60	居立遺跡	いだて 弥生土器が出土したという。また、福田寺池遺跡も含むものとする。	田口	弥生末・古墳初、室町～戦国	散布地	700200
61	半兵衛屋敷（田口村古屋敷）	はんべえやしき 慶長年間の菅沼半兵衛政勝の居館跡と伝えられる。詳細分布調査では遺構・遺物が確認できない。	田口	江戸初	城館跡	703001
62	田口大久保遺跡	たぐちおおくぼ 詳細分布調査では打製石斧が採集された。	田口	縄文	散布地	700359
63	田口西貝津遺跡	たぐちにしがいつ 詳細分布調査では灰釉陶器や古瀬戸製品などが採集された。	田口	平安～戦国	散布地	700360
64	田口シウキ遺跡	たぐちしうき 平成21年度に範囲確認調査を実施。詳細分布調査では灰釉陶器や山茶碗などが採集された。	田口	平安～室町	散布地	700361
65	大崎遺跡	おおさき 平成19年度に範囲確認調査を実施。詳細分布調査では縄文土器などが採集された。	田口	縄文、平安、戦国？	散布地	700195
66	根ノ後遺跡	ねのご かつて縄文土器が採取されたが、詳細分布調査では遺物が採集できなかった。	清崎	縄文	散布地	700344
67	大峯遺跡	おおみね 奥三河郷土館には縄文土器などが所蔵されるが、詳細分布調査では剥片？が採集されたのみである。	清崎	縄文、弥生、平安～戦国	散布地	700226
68	広畑遺跡	ひろはた 詳細分布調査では灰釉陶器や古瀬戸製品などが採集された。	清崎	平安～戦国	散布地	700204
69	萩平遺跡	はぎだいら かつて灰釉陶器などが採取され、詳細分布調査では戦国時代の遺物が採集された。	清崎	戦国	散布地	700205
70	萩平村古屋敷	はぎだいらむらふるやしき 詳細分布調査では遺物は採集されていない。	清崎	戦国？	城館跡	703005
71	重原藩田口代官所	しげはらはんだぐちだいかんじ 詳細分布調査では遺物は採集されていない。	清崎	近代	城館跡	703002
72	松戸遺跡	まつど 詳細分布調査では灰釉陶器や山茶碗などが採集された。	松戸	平安～戦国	散布地	700334
73	松戸下畑遺跡	まつどしもばた 詳細分布調査では中国青磁片が採集された。	松戸	鎌倉～室町	散布地	700362
74	松戸城跡	まつど 明確な遺構・遺物は確認されておらず、確認調査が必要。	松戸	戦国？	城館跡	703004

かわむきひがしがいつ

2. 川向東貝津遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 池本正明

所在地：北設楽郡設楽町川向字東貝津（北緯35度6分26秒 東経137度33分54秒）

調査期間：平成22年11月～平成23年1月

調査面積：400㎡（調査の都合上、A区・B区・Ca区・Cb区・Cc区の5調査区に分ける）

調査担当者：池本正明・阿部 敬

県道432号線を設楽大橋東側から県道33号線方面に進むと、途中で大きくS字状に曲がる場所があります。川向東貝津遺跡はそのすぐ手前、県道432号線を見上げる位置にあります。

遺跡は豊川の支流となる境川の右岸となります。境川は県道432号線に沿って蛇行しますが、遺跡は弧状となる流路の内側の比較的なだらかな傾斜地に所在します。

調査の結果、2種類の特徴的な遺構^{いこう}が確認できました。

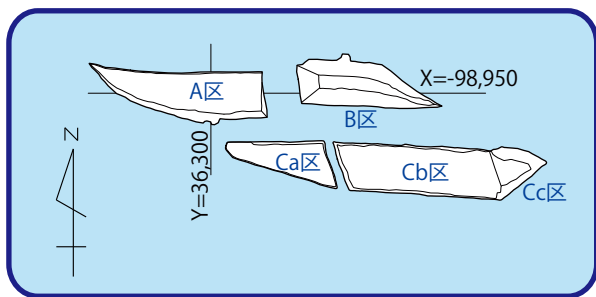
まず、Cb区^{じょうもん こうきしょう}で縄文時代後期初頭の土器が立った状態で出土しました（Cb区001SK）。埋められた穴がうまく検出できていませんが、「土器埋設遺構^{どきまいせついく}」と呼ばれる遺構です。もう一つは20 cm程度の石が多数つまった円形の穴が二つあります。ただし、時期や性格が不明瞭で、今後の検討課題となります。

A・B区では目立った遺構は見つかりませんが、近世末^{きんせい}～近代^{きんだい}の陶磁器片^{とうじ}が出土しています。遺跡周辺に存在する石垣の構築時期と関連するのかも知れません。

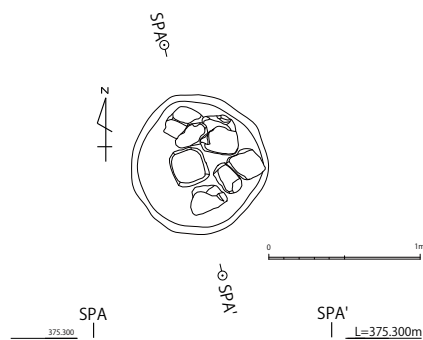
なお、縄文時代早期^{そうき}・弥生時代終末期^{やよい しゅうまつ}～古墳時代^{こふん}・平安時代末^{へいあん}の土器片も若干出土しています。



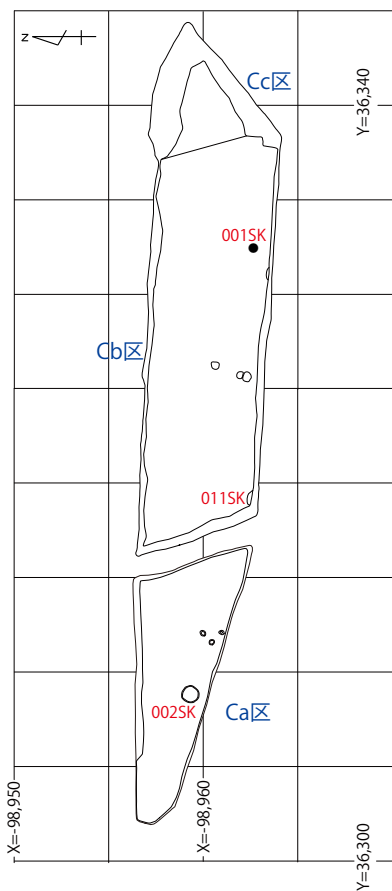
調査区遠景（東側上空から撮影）



調査区配置 1:3000



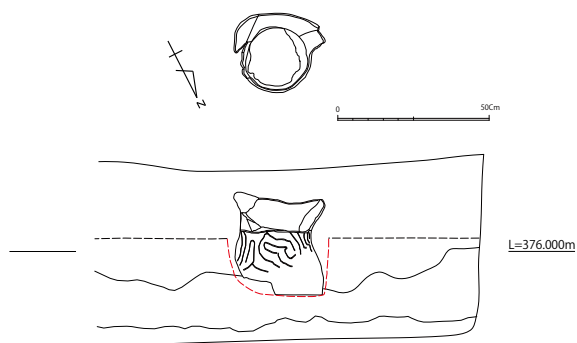
石がつまった穴 (Ca区 002SK) 1:50



C区拡大 1:400



石がつまった穴 (Cb区 011SK)



「土器埋設遺構」(Cb区 001SK) 1:25



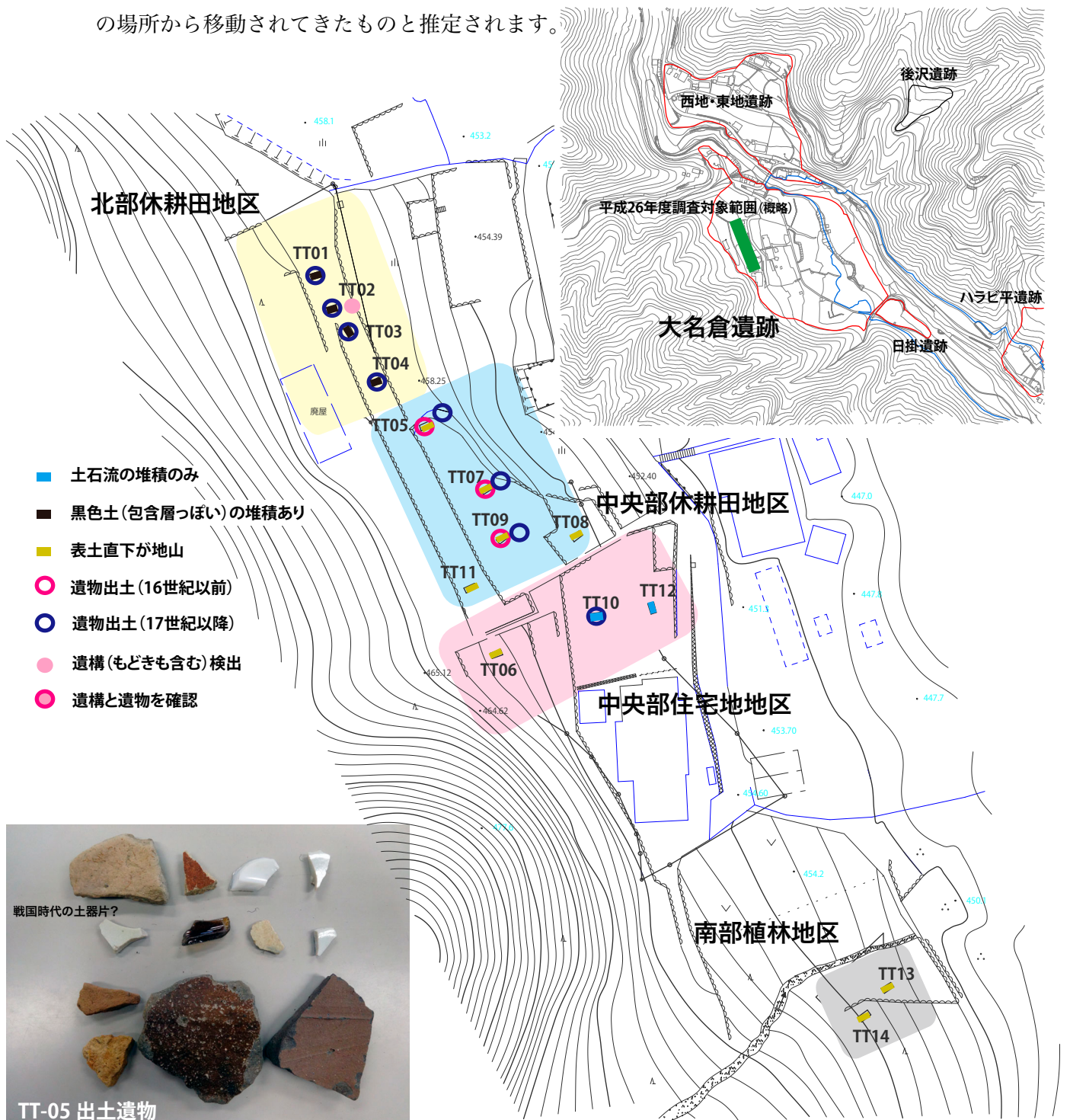
「土器埋設遺構」(Cb区 001SK)

3. 平成26年度範囲確認調査

愛知県埋蔵文化財センター 鈴木正貴

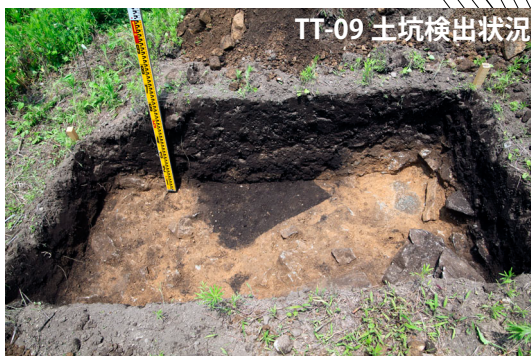
大名倉遺跡

これまで平成19・20・25年度に範囲確認調査が行われ、今回は山麓斜面部を中心に調査を行いました。遺構は、T・T02で近代以降の土坑1基が検出されたのみでした。遺物は、北中部の休耕田地区で江戸時代後期から近代の陶磁器類が多数出土しており、T・T05で戦国時代に属する土器と陶器片、T・T07では室町時代の古瀬戸陶器片、T・T09では縄文時代の石器が出土しました。この区域は、地山を削り込まれたものと推定され、遺物は別の場所から移動されてきたものと推定されます。



かみとがみ 上戸神遺跡

東堂神社の正面にある平坦面を中心に展開する縄文時代・平安～戦国時代の遺跡です。今回の調査対象範囲のうち北部住宅地地区では近代以降に大規模に造成されており、遺跡は良好に残存していないと考えられます。西部から南部では、T・T09で方形土坑1基が確認され、鉄製品2点が出土しました。また、T・T13では黒褐色土から縄文土器が出土しましたが、これは上位から流入されたものと考えられます。したがって、T・T09で遺構と遺物が確認された他は、遺跡が展開したとは考えにくい状況です。



川向萩ノ平沢遺跡

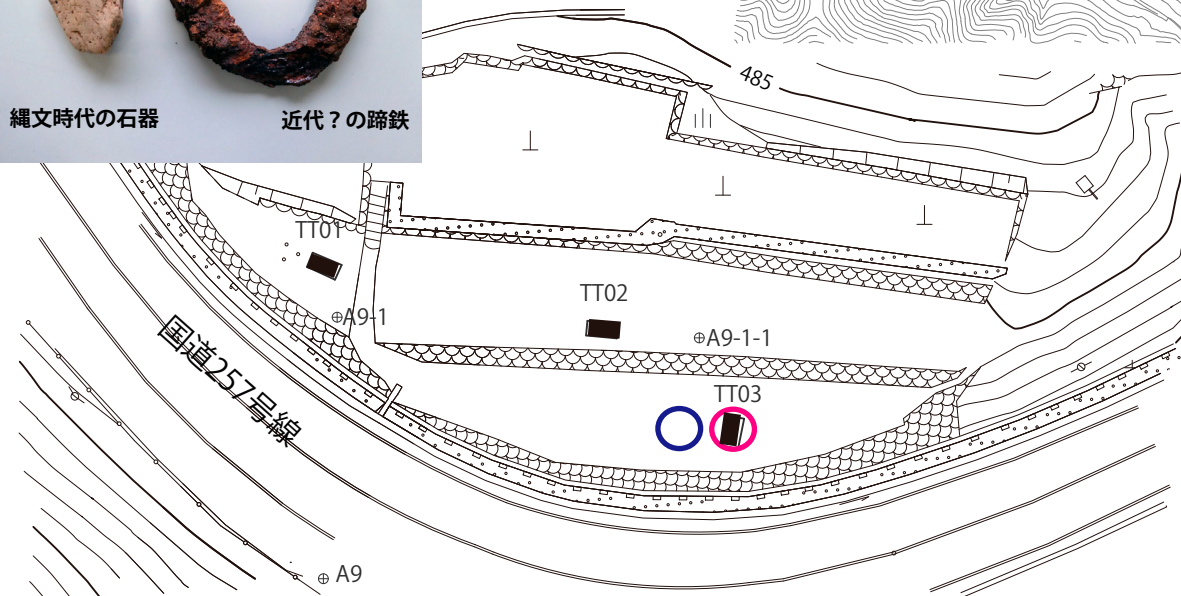
県教委の詳細分布調査の結果、縄文時代と平安時代の遺物散布地として発見され、調査はその南端部を行いました。全ての試掘坑で黒褐色土が確認されており、T・T03で縄文時代の石器が1点出土しました。これ以外に遺構と遺物は全く発見されなかったことから、調査地点よりも上位で縄文時代の遺跡が展開しているものと推定されます。

TT-03 出土遺物



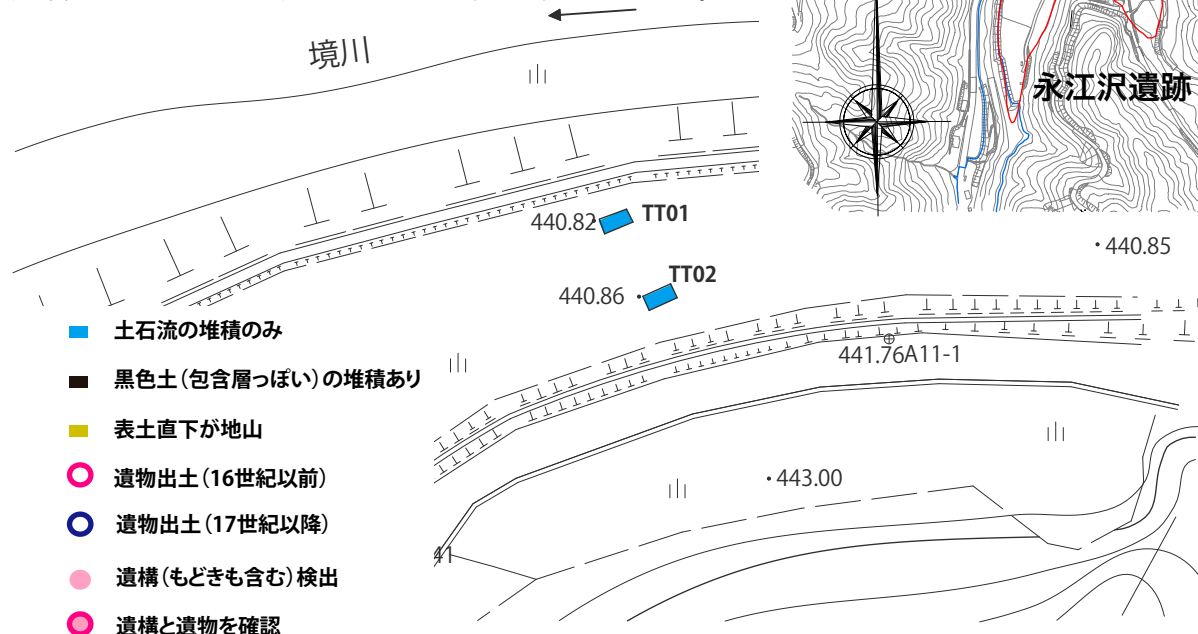
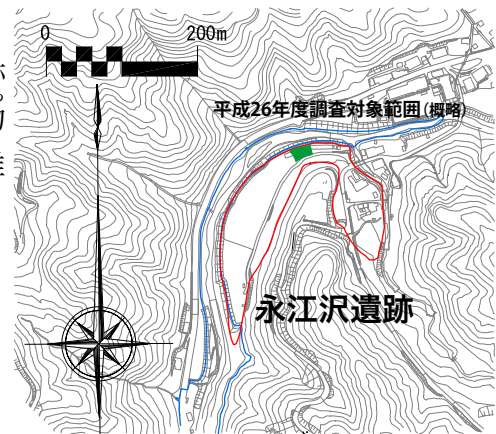
縄文時代の石器

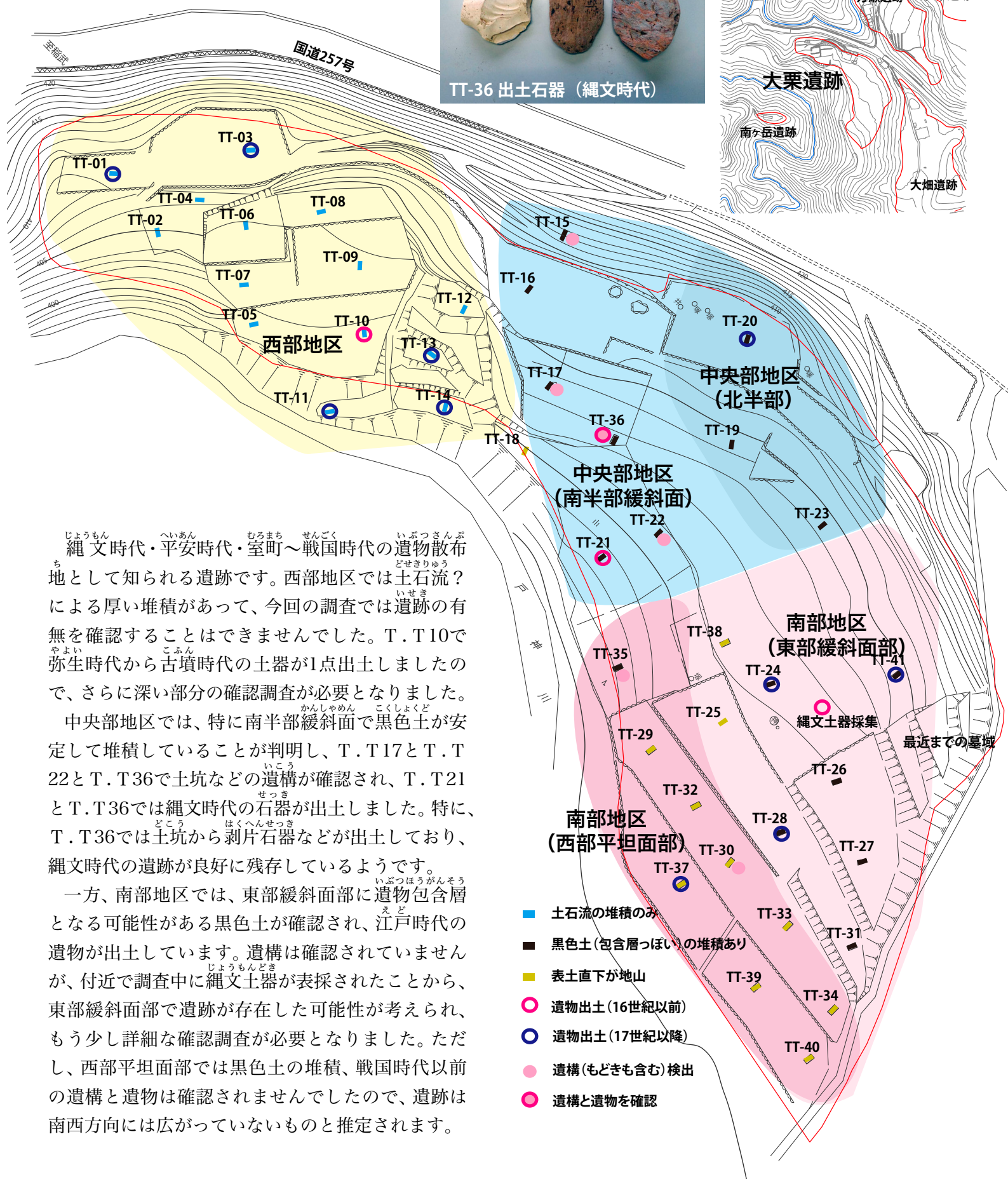
近代?の蹄鉄



永江沢遺跡

縄文時代・鎌倉～室町時代の遺物散布地として知られる遺跡です。調査の結果、T・T01とT・T02ともに厚い河川性堆積物がみられ、遺構と遺物が全く確認されませんでした。上位の堆積は耕地整理の際の盛り土である可能性が考えられます。





4. 万瀬^{まんぜ}遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 鈴木正貴

所在地：北設楽郡設楽町川向字マンゼ（北緯35度9分44秒 東経137度33分54秒）

調査期間：平成26年6月～10月

調査面積：2050㎡

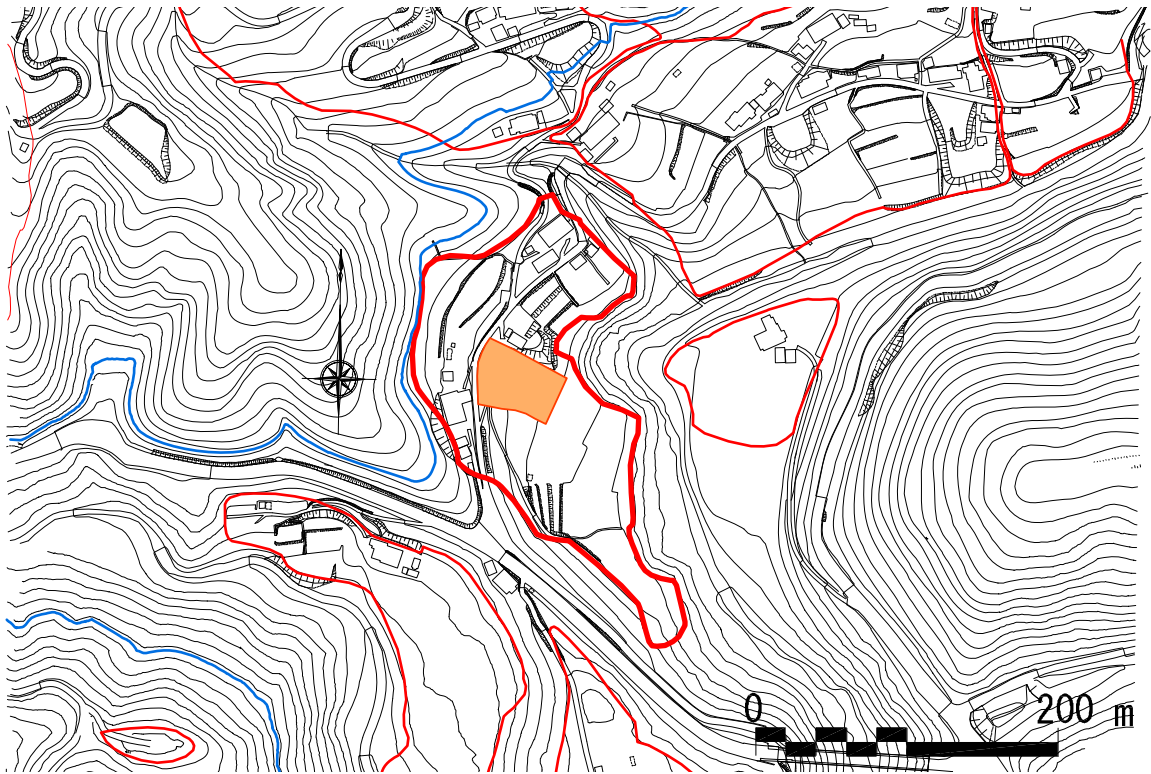
調査担当者：鈴木正貴・川添和暁

調査の概要

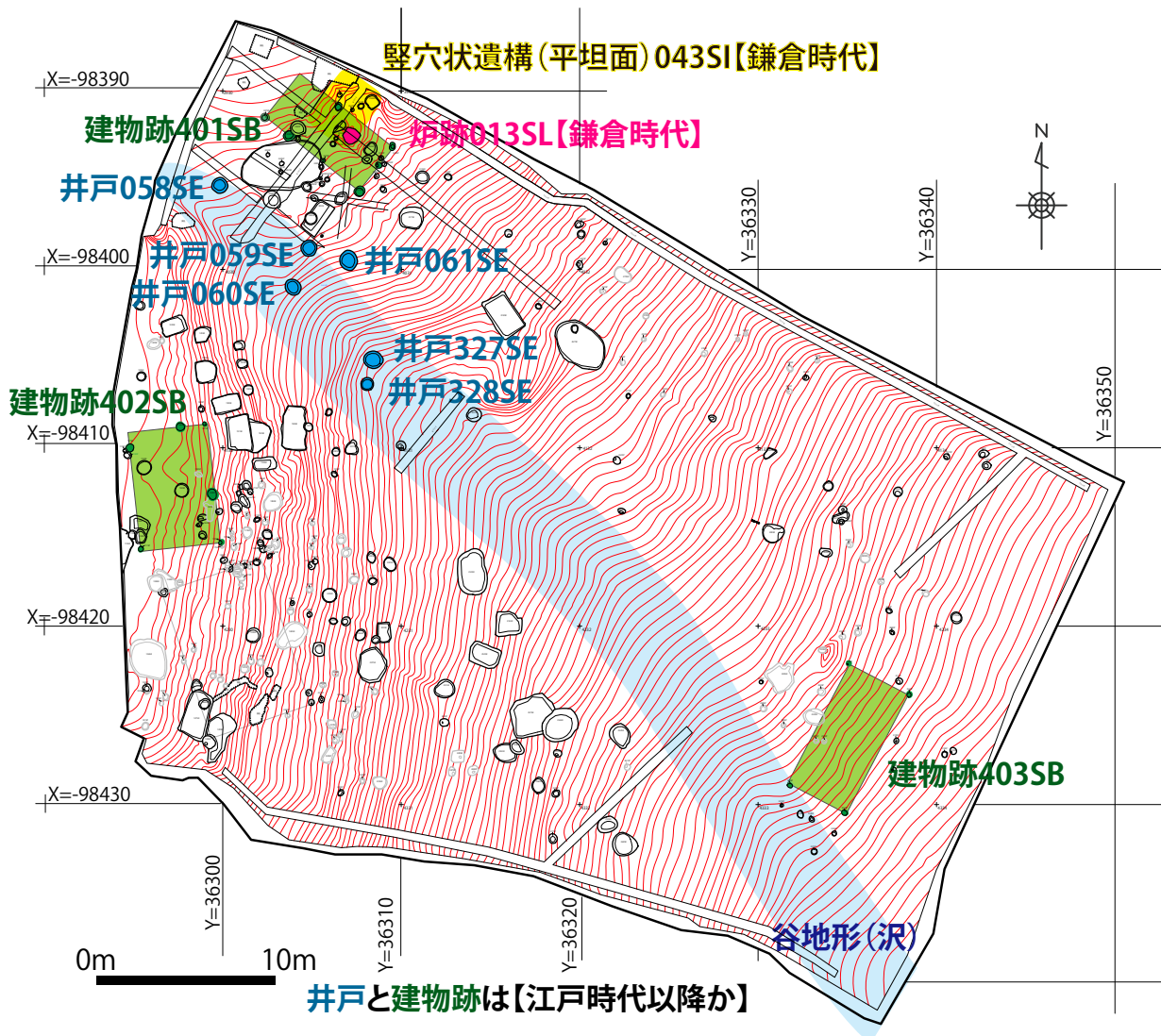
調査区北西部を中心に近現代の盛土^{もりど}や石垣があり、これを除去するとやや急な斜面に黒褐色土が堆積^{こっかつしよく}していることが判明しました。調査はこの黒褐色土の堆積を中心に行い、縄文時代^{じょうもん}の土器と石器^{どき}、鎌倉時代^{かまくら}の竪穴状遺構^{たてあなじょういこう}（平坦面^{へいたんめん}を切り出した作業場か？043SI）や鍛冶炉^{かじろ}（013SL）、江戸時代^{えど}の掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}（401SB～403SB）や井戸（058SE～061SE・328SE・329SE）、土坑^{どこう}などが発見されました。また、調査区北西部の上位では、集石遺構^{しゅうせきいこう}（001SX～006SX）が検出されており、8月9日に開催された地元説明会の段階では縄文時代の遺構と考えてきました。しかし、調査を進めていくと集石下半部にきちんとした構造や土坑が伴わないこと、最下部で明らかに中世以降^{ちゅうせい}と考えられる台石^{かなとこいし}（金床石か？）が出土したことなどが明らかになり、総合的に検討した結果、現在は江戸時代以降の集石と推定しています。



遺構全体写真（第2面：鎌倉時代～江戸時代）

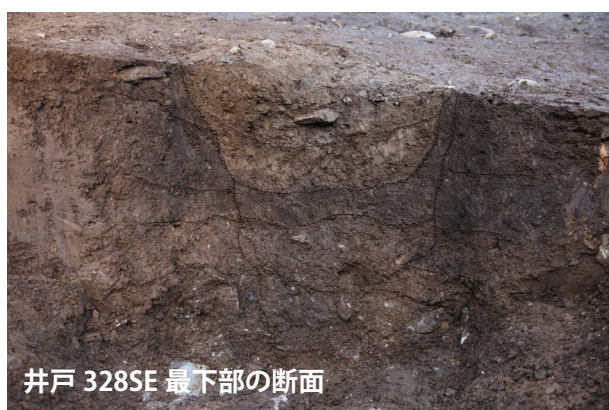
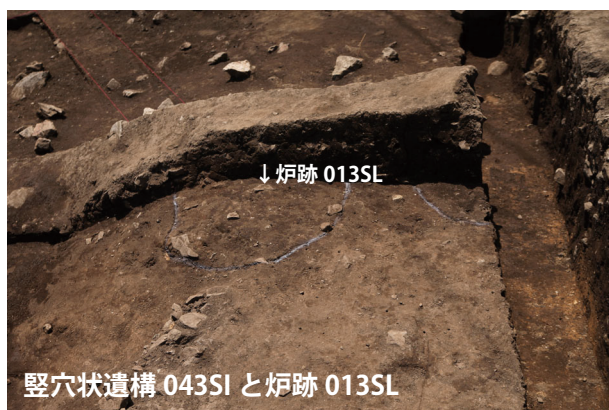
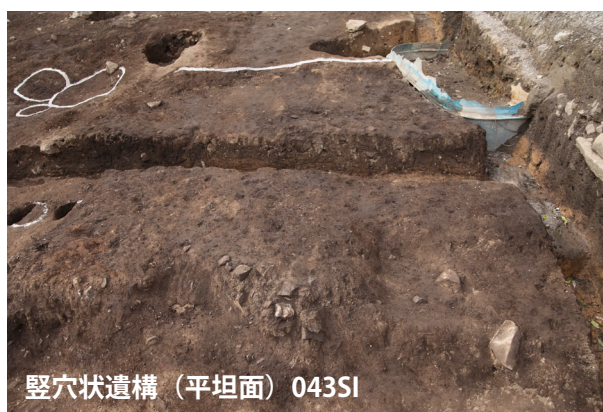


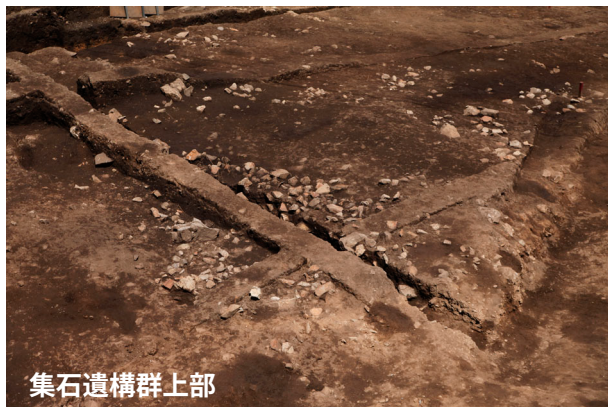
調査区位置図



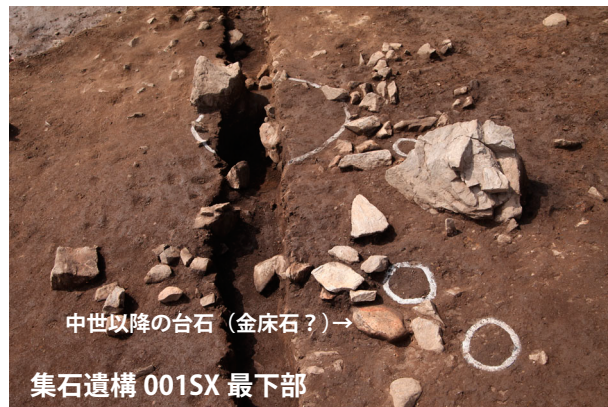
井戸と建物跡は【江戸時代以降か】

主要遺構図 (第2面: 鎌倉時代～江戸時代)

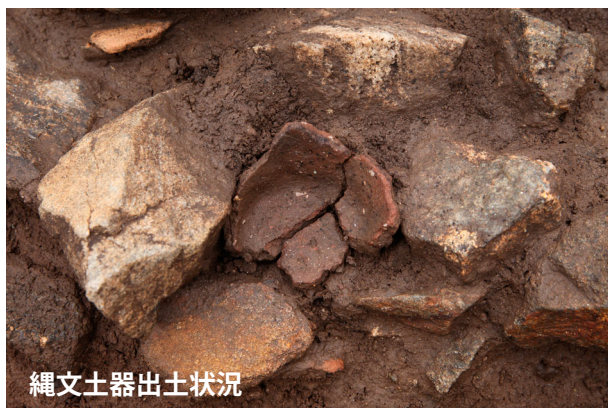




集石遺構群上部



集石遺構 001SX 最下部



縄文土器出土状況



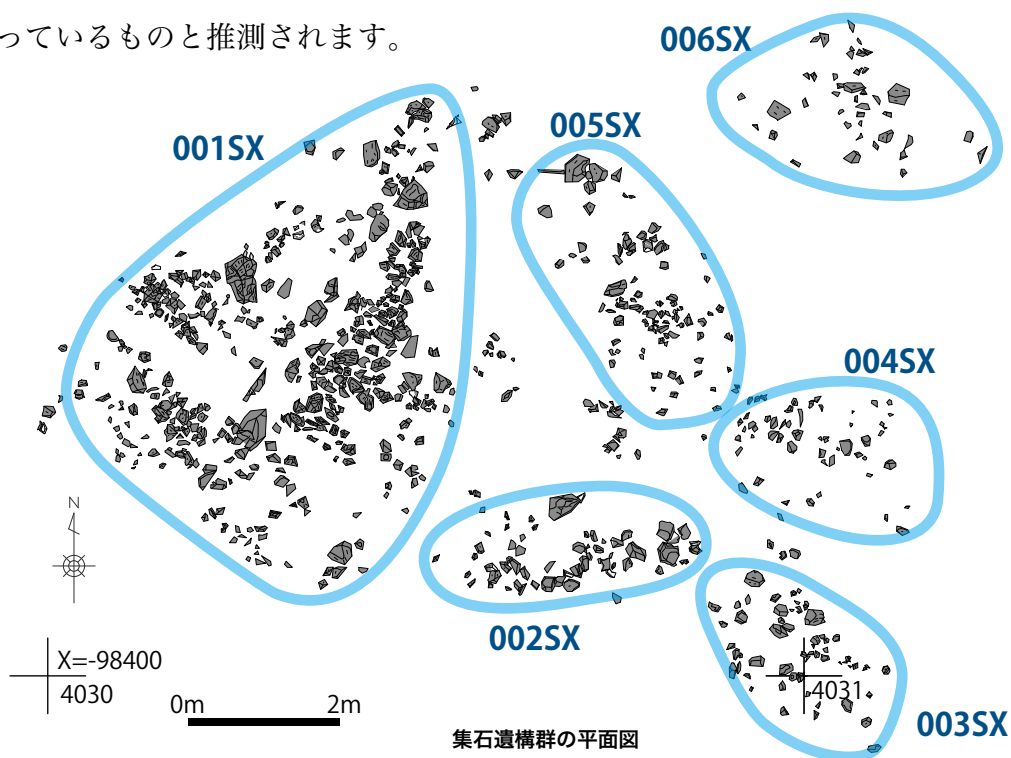
縄文土器(注口土器)出土状況

まとめ

調査の結果、鎌倉時代と江戸時代の生活の痕跡が発見されました。特に、鎌倉時代ではかじぎょう鍛冶作業を行う作業場(竪穴状遺構)が発見されたことは注目されます。また、縄文時代の土器や石器が多数出土したことも重要です。残念ながら今回は遺構をみつけられませんが、調査区北側の区域には縄文時代の遺構が残っているものと推測されます。



打製石斧出土状況



集石遺構群の平面図

5. 西地・東地遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字西地、東地（北緯35度6分41秒 東経137度32分37秒）

調査期間：平成26年5月～平成27年1月

調査面積：4,220㎡（調査の都合上、14A区・14B区・14C区の3調査区に分ける）

調査担当者：鈴木正貴・川添和暁

立地と環境

西地・東地遺跡は標高約450m、寒狭川^{かんさがわ}左岸の山から伸びる傾斜地および河岸段丘^{かがんだんきゅう}上に立地します。遺跡の場所は大名倉地区の北西端で、寒狭川による谷地形が開け始める地点に当たります。寒狭川の対岸には、昭和43（1968）年、早稲田大学の調査で縄文時代後期の遺物が多く出土した、大名倉遺跡があります。

調査の成果その1 平安時代以降の遺構と遺物

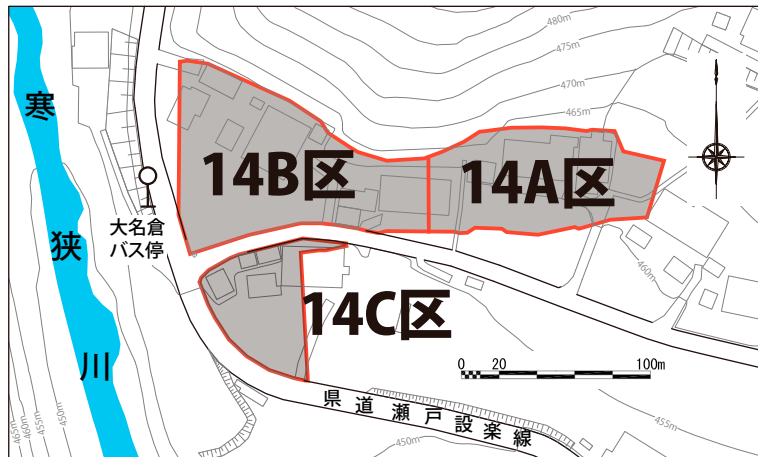
平安時代^{へいあん}・鎌倉時代^{かまくら}・室町時代^{むろまち}・戦国時代^{せんごく}・江戸時代^{えど}の陶器片が見つっていますが、当時の人が残した活動の跡（遺構^{いこう}など）は、室町時代から江戸時代のものが中心です。確認された遺構には、柱穴跡^{はしらあな}・炉跡^ろ・お墓^{おみ}・その他掘られた坑（土坑^{どこう}）があります。

柱穴跡や炉跡は、14B区西側で多く見つかりました。柱穴跡には、柱の痕跡を確認できるものが多くあり、一部は組み合わさって掘立柱建物跡になるものもあります。炉跡は5基見つかりました。いずれも焼けたことにより鮮やかな朱色になっており、周囲から鉄滓^{てっさい}（カス）が出土することがありました。この炉跡の周囲に柱穴跡が集中して見つかる場所もあり、掘立の覆屋^{おおいや}がついていた可能性があります。またこの付近一帯からは、焼けて赤くなった大きな台石^{だいし}や、磨れた石^す、砥石^{といし}が多く出土しました。農具など、鉄製道具の製作や調整を行っていたかもしれません。

お墓は、14A区で2基、そして14B区の東側で3基の、あわせて5基見つかりました。いずれも谷の傾斜する場所で見つっています。これらのお墓の中には人骨の一部が残っており、キセル・火打石^{かんえいつうぼう}・寛永通宝も一緒に出土しました。

調査の成果その2 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代^{じょうもん}の遺物は、14B区の西側とC区で多く見つっています。その中でも、当時の人が残した活動の跡（遺構など）は14B区西側で良好な状態で見つかりました。



調査区位置図 (1:4,000)

確認された遺構には、^{たてあな}竪穴建物跡5棟、^{ふくろじょうどこう}袋状土坑5基以上、^{どき}土器が埋設された遺構2基、その他には柱穴跡や土坑もありました。出土した土器の年代から、これらの遺構は縄文時代中期後半から後期初頭（^{ちゅうきこうはん}今から5,000年前～^{こうきしやう}4,500年前頃）に営まれたことが判明しました。

縄文時代中期後半の^{たてあな}竪穴建物跡は、14B区北西端で3棟見つかりました。いずれも一辺40cm四方の空間を作るように河原石で組まれた炉跡（^{いしがこいろ}石囲炉跡）が1基ずつ見つかりつづいています。この石囲炉跡3基のうち2基の炉跡内には大型の土器片が敷かれていました。柱穴跡や建物自体の掘った痕跡も、一部ではありますが見つかりつづいており、いずれも一辺5m程度の^{すみまるほうけい}隅丸方形の形であったと考えられます。

^{ふくろじょうどこう}袋状土坑は、この中期後半の竪穴建物跡が見つかった場所の東側で、集中して見つかりつづいています。袋状土坑は、袋のように上の方が狭くなっている断面の形からそのように呼ばれています。これらは植物質食料の貯蔵穴であったと言われており、今回の調査でも、袋状土坑の1基の中から^{けんかうい}堅果類（ドングリ）の実が炭化した状態でわずかに残っていました。また別の袋状土坑では、中に多量の土器片と磨製石斧が入れられていました。貯蔵穴としての役割が終わった後に入れられたようです。

調査区南壁際で見つかった竪穴建物跡は、径4m程度の円形あるいは隅丸方形の形で見つかりました。柱穴の跡は壁際の柱を中心に見つかりつづいており、中央には土器の細片が敷かれた炉跡（^{どきじきろ}土器敷炉跡）が確認されました。また、竪穴建物跡の南西端には、床下に土器を埋設した遺構が1基見つかりました。土器は^{せい}正位に埋められており、口縁側に^{ふた}蓋にした石が置かれ、底部には小さな^{あな}孔があけられていました。この遺構は^{うめがめ}埋甕と言われるもので、竪穴建物跡の入り口側につくられるものです。埋甕が設けら

れた理由としては諸説ありますが、死産児^{しさんじ}などを入れて再び母親に魂を戻れるように再生を願ったとか、出産後の胎盤^{たいばん}を入れて健やかな成育への願いをした、などと言われています。土器の年代は、後期初頭^{こうきしやうとう}（今から4,500年前）になるものです。

埋甕の見つかった竪穴建物跡の北西側でも、別の竪穴建物跡が見つかりました。この建物跡中央から北西寄りには、0.5×1mの範囲で長方形の石組があり、その中央に土器敷炉跡があるとともに、南東端には入子^{いれこ}の状態^{じょうたい}で据えられ土器が、北西端には大きな台石^{だいいし}が置かれていました。台石と入子で据えられた土器を含め、石組全体で炉跡として機能していたようです。

その他、土器を埋設した遺構が2基見つかっています。いずれも正位に埋設されたものです。1基は胴部下半のみが辛うじて残存している状態で時期はよく分かりません。一方、口縁部まで残存しているものは土器の年代から後期後葉^{こうきこうよう}（今から約3,300年頃前）のものと考えられます。

縄文時代の出土遺物には、縄文土器^{じやうもんどき}と石器^{せつき}があり、ごくわずかですが弥生時代^{やよい}の土器もありました。縄文土器は、中期後半^{ちゆうきこうはん}から後期前葉^{こうきぜんよう}までが主体ではありますが、早期^{そうき}の押形文土器^{おしがたもん}が今から約9,000年前頃と最も古く、早期後半^{そうきこうはん}・前期後半^{ぜんきこうはん}・中期^{ちゆうき}の中頃のものも若干出土しました。石器では、石鏃^{せきぞく}・石匙^{いしさじ}・スクレイパー^{だせいせきふ}・打製石斧^{うちせいせきふ}・磨製石斧^{ませいせきふ}・打欠石錘^{うちかぎせきすい}・切目石錘^{きりめせきすい}・有溝石錘^{ゆうこうせきすい}・磨石^{すりいし}や敲石^{たたきいし}、そして石皿^{いしざら}や台石^{だいいし}などが出土しました。石鏃などの石器の材料として、黒曜石^{こくようせき}が多く使われていました。また、14C区からは、大型石棒^{おおがたせきぼう}や土製の耳飾片^{どせいみみかざり}も出土しました。

今回の調査の意義

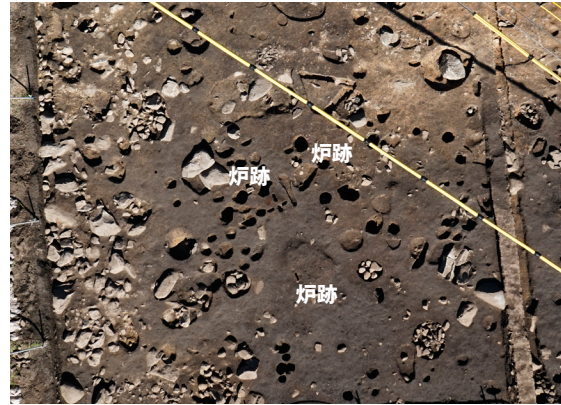
今回の調査により、設楽町域での縄文時代中期から後期の集落の様子を描けるようになりました。設楽町域では、これまで縄文時代の遺物は多量に採集されてきましたが、当時の活動痕跡（場）を広く確認することができていませんでした。単に調査事例の多い西三河地域との比較材料になるのみならず、今後行われる設楽ダム工事関連事業の調査事例とも併せて、豊川最上流域の様相を解明する基礎資料として、今後、広く活用されるものになるでしょう。



14B 区 室町時代から江戸時代の調査面と 14C 区 黒色土の様子（南より）



14B 区 江戸時代炉跡 (811SL) (北東より)



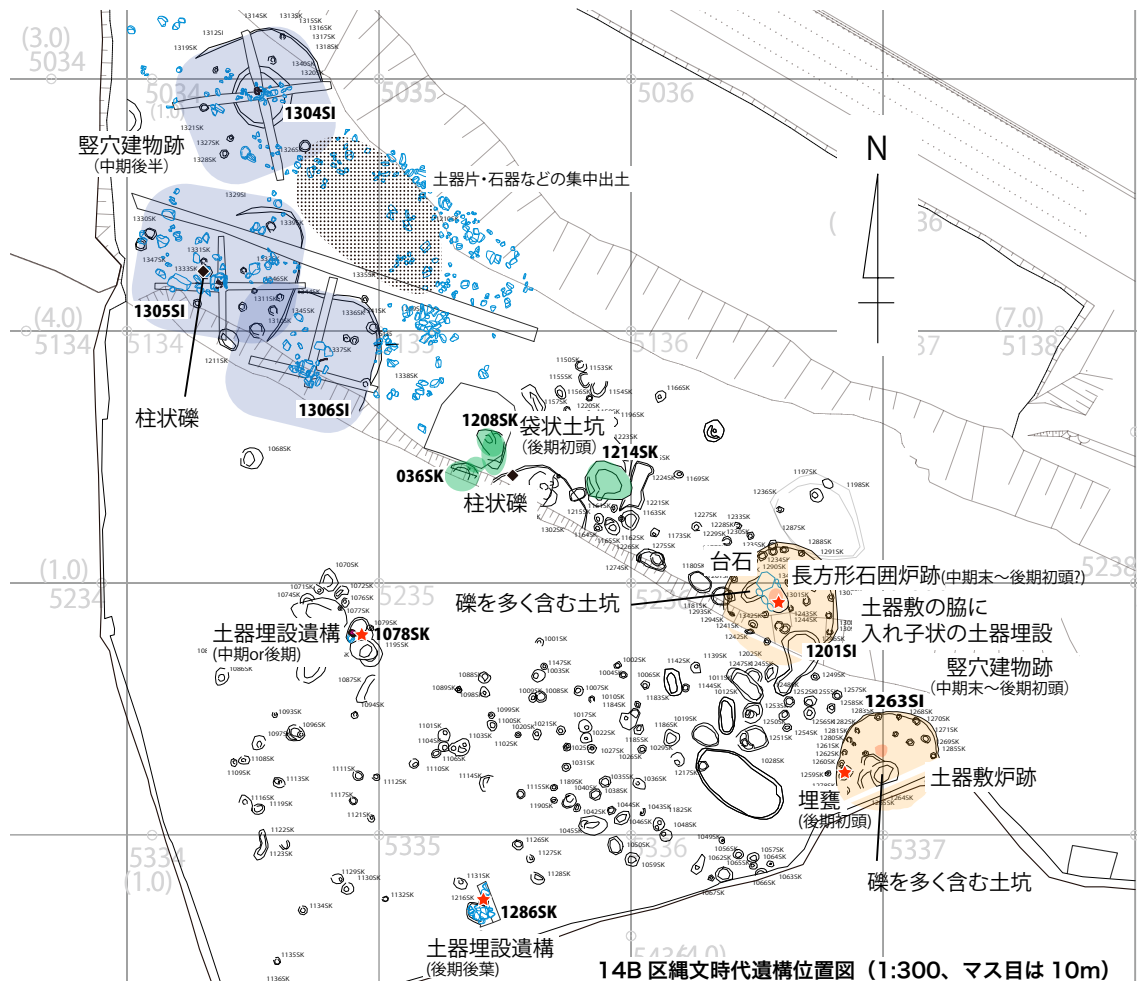
14B 区 江戸時代炉跡と周囲の柱穴（南より）



14B 区 江戸時代の埋葬人骨 (341SZ) (南東より)



14B 区 江戸時代の埋葬人骨 (343SZ) (南より)



14B 区 縄文時代竪穴建物跡 1263SI (南西より) と、建物跡内の埋甕 (写真右下)



14B 区 縄文時代竪穴建物跡 1304SI (南西より)



写真左の石囲炉跡 (北より)



14B 区 縄文時代竪穴建物跡 1305SI (南東より)



写真左の石囲炉跡 (南より)



14B 区 縄文時代竪穴建物跡 1201SI (北西より)



写真左の長方形石組炉跡 (南より)



14B 区 縄文時代袋状土坑 (036SK) 断面 (南より)



14B 区 縄文時代袋状土坑内の堅果類 (ドングリ)

草創期
前期
中期
後期
晩期

年	代	時代	愛知県内の遺跡																																																																
3500年前	3000年前	2500年前	1500年前	6000年前	5000年前	4000年前	3000年前	2500年前	A.D. 0年	3000年	6000年	7000年	8000年	9000年	10000年	11000年	12000年	13000年	14000年	15000年	16000年	17000年	18000年	19000年	20000年																																										
		後期旧石器時代		縄文時代			弥生時代		古墳時代		飛鳥時代		奈良時代		平安時代		鎌倉時代		室町時代		戦国期		江戸時代		近代・現代																																										
		台形様石器・ナイフ形石器・ 局部磨製石斧の出現			鹿兒島県始良カルデラ（ヤ）の降灰			土器の発明・弓矢の使用 氷河期が終わる		気候の温暖化による海進		寒冷化し、海退した低地にも 生活を始める		拔牙風習の盛行		土器棺墓群が形成される		稲作の開始 環濠集落の出現		金属器の使用・銅鐸の使用		女王卑弥呼邪馬台国を統治する 大和政権の出現・各地に古墳の造営		仏教の伝来		593年 聖徳太子摂政となる		645年 大化の改新		710年 平城京遷都		743年 東大寺大仏建立の詔・国分寺		794年 平安京遷都		藤原氏の摂関政治		院政		武士の台頭		1192年 源頼朝 鎌倉幕府を開く		承久の乱		元寇（文永・弘安の役）		1334年 建武の新政		1335年 足利尊氏 室町幕府を開く		南北朝の動乱		1467年 応仁の乱		1576年 織田信長安土城築城		1590年 豊臣秀吉の天下統一		1600年 関ヶ原の合戦		1603年 徳川家康江戸幕府を開く		1867年 大政奉還		1945年 太平洋戦争終結	
		上品野遺跡 （瀬戸市）			茶臼山遺跡 （豊根村）			駒場遺跡 （豊川市）		萩平遺跡 （新城市）		多岐畑遺跡 （豊田市）		大根平遺跡 （豊田市）		石岸遺跡 （新城市）		石井遺跡 （新城市）		宮崎貝塚 （豊根村）		麻生田大橋遺跡 （豊川市）		桜平遺跡 （豊川市）		白土遺跡 （豊川市）		瓜郷遺跡 （豊川市）		西向遺跡 （東栄町）		欠山遺跡 （豊川市）		馬越長火塚古墳 （豊橋市）		屋木下古墳 （設楽町）		丸根古墳 （豊橋市）		東中田A古窯 （豊橋市）		三河国分寺跡 （豊川市）		白鳥遺跡 （豊川市）		西浦遺跡 （豊橋市）		大根平遺跡 （設楽町）		苗畑5号窯跡 （豊橋市）		普門寺跡 （豊橋市）		ブヤキ窯跡 （東栄町）		西側遺跡 （豊橋市）		武節城址 （豊田市）		田峯城址 （設楽町）		津具城址 （設楽町）		吉田城跡 （豊橋市）			

関連歴史年表

じょうもんじだい

縄文時代とは

日本列島において、縄文土器と呼ばれる土器が製作・使用されていた時代です。一般的には、後期旧石器時代にはなかった土器の登場および弓矢の使用開始から、水田稲作農耕が本格的に始まる弥生時代までの間の時代になります。縄文時代は、狩猟・漁撈・採集や管理などの植物利用による生業を営んでいましたが、そのあり方は、地域や時期によりさまざまです。

縄文時代は、一万年以上にもわたる長い時代です。そのため、研究者の間では、

草創期（15,000 年前～11,000 年前頃） 早期（11,000 年前～7,000 年前頃）
前期（7,000 年前～5,500 年前頃） 中期（5,500 年前～4,500 年前頃）
後期（4,500 年前～3,200 年前頃） 晩期（3,200 年前～2,500 年前頃）

の六時期に分けられています。

平成26年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝 配付資料

平成27年3月8日 発行

編集・発行



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24

HP <http://www.maibun.com>

愛知県埋蔵文化財センター

電話（0567）67 - 4163【調査課】

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun